

## 学校創立 60 周年記念に寄せて

阿部 崇（東京家政大学子ども学部子ども支援学科）

私は筑波大学附属大塚特別支援学校で 18 年間勤めさせていただきました。高等部で 10 年、中学部で 5 年、支援部兼特別支援教育研究センターで 3 年。あっと言う間の 18 年間でした。

特に思い出されるのは宿泊行事でしょうか。特に、スキー合宿は昭和 53 年から始まり、狭山室内スキー場による 1 日スキー教室、福島県猪苗代や長野県湯の丸高原スキー場で実施され（創立 30 周年記念誌、1990）、現在では尾瀬岩鞍スキー場に移し、中学部、高等部の生徒が合同で実施する一大行事です。

毎年 1 月末に実施されるスキー合宿に向けては、年末には正木先生を中心に御茶ノ水へスキーの板やブーツ等、買い出しに行くのが恒例でした。そして、年明けにはスキーウェアの着脱、廊下に人工芝を敷いてスキーブーツを履いての歩行練習をしたものです。事前学習から丁寧にアプローチしたこともこの学習の大きな特徴だったと思います。活動班は石飛先生と一緒に頭を悩ませながら、スキーの技量ごとに班分けをして、なるべく多くリフトで登って滑り降りられるよう配慮したのもです。途中からスキー板の開閉器、ゲレンデ用の人工芝の導入で飛躍的にリフトの乗降回数が増えたことを思い出します。年々、尾瀬岩鞍スキー場の方々の大塚特別支援学校への理解が高まり、大塚専用のゲレンデ確保等のご配慮をいただけたこともうれしい経験でした。また、夜間レクリエーションも実施しました。夜、鎮まり返ったゲレンデを懐中電灯の明かりを頼りにナイトウオークを楽しみ、宝探しゲームや雪合戦、そりレースをしたり、七輪でマシュマロを焼いて食べたり、寒い中で飲む温かい紅茶は美味でした。そのような楽しい様子や活動風景を先生方は撮影したものです。そして、山のような静止画や動画から宇佐美先生が編集してくれた DVD は事後学習に大変役立ち、保護者会での上映会も好評でした。

家族から離れて、非日常の場で学生ボランティアと交流を深めながら宿泊学習を実施する。そこには、大自然の中での先輩後輩との集団活動があり、学校生活では見られない生徒の一面が数多く見られました。合宿最終日、大塚特別支援学校に向かう帰りの観光バスに乗り込む生徒たちは一回り遅しく、そして頼もしく感じたものです。

今、新たな学習指導要領が一部スタートして、働き方改革が推進され、特別支援教育も大きく変わろうとしています。これからの変わる大塚、変わらない大塚に期待し、さらなる発展を願い、これからも応援していきたいと思います。

60 周年おめでとう！



スキー合宿のしおり